

令和7年度たきざわ自分ごと化会議 提案書

あなたの声かけが、
だれかの一步を支える力に。



議論テーマ「高齢者の移動手段について」



令和8年3月

令和7年度たきざわ自分ごと化会議

メンバー 一同

目次

1 はじめに	P1
2 「たきざわ自分ごと化会議」の概要	P2
3 検討の内容	P9
4 私たちの提案	P10

●表紙の写真 メンバーの決意表明(まず、何からやってみる?)

- ・地域とのかかわりを！ ・動ける範囲から※無理せず
- ・公共交通の利用の仕方教えます。 ・声をかける つながる
- ・小さな一歩だけど公共交通機関を使ってみる!!私も地域の一員
- ・コミュニティを作ろう ・小さなチャンスを大きな一歩に ・柔
- ・「一人一人」みんなが話せる事!! ・将来について具体的に考える
- ・安全運転!! ・いつまでも自分の足であるく ・声を聞こう!



**【自分ごと化会議について】**

自分ごと化会議とは、何かを決定する場ではなく、テーマを「自分ごと」として捉え「自分たちなら何ができるか」「どうすれば市がもっと良くなるか」をみんなで考える場です。

これまで市政と直接的な接点の少なかった私たちが、無作為抽出により選ばれたという偶然で、市政について考える・参画するきっかけが生まれ、集まった会議です。

全4回の自分ごと化会議の終了後には、各回で話し合った私たちの意見をまとめた提案書を市長に提出します。

提案の中には「私たち市民」「地域」「行政」が、それぞれの立場でできること、それぞれの立場で行うことが書かれており、市は、提案書を受け取り「行政」の立場でできることから、今後の市政運営に反映していくとのことです。

そしてこの提案を周知してもらい、「私たち市民」や「地域」で、市に興味を持ち、市や地域の課題を「自分ごと化」できる人が増える機会となるように、一緒に実践していきたいと願うものです。

【提案書の作成に当たり】

私たちは、無作為抽出により選ばれた市民のうち、自ら手を挙げた20代から70代の21人をメンバーとして、「高齢者の移動手段について～免許返納後の生活ってどうなる！？～」をテーマに議論を重ねました。

市がこのテーマを設定した背景には、買い物や通院など日常生活において車が欠かせず、独居や高齢者のみの世帯が増える中、高齢者の移動手段に多くの課題があり、外出の機会が減り、閉じこもりも懸念されているということがありました。

参加を決めたきっかけとしては、「市がこんな会議をしているんだ」「高齢者の移動手段は自分にとっても気になる」など興味や関心が生まれたことはもちろん、何より「せっかく選ばれたのだから！」という気持ちで集まりました。

会議の中では「若い人たちがこんなに熱心に討論していて、滝沢の未来は明るいなと思った」「自分の考えを聞いてもらうことができた」「難しいテーマだなと思ったけれど、前向きな議論ができて楽しかった」などの声が聞かれ、全4回を経てメンバー相互につながりができたように感じます。

また、「市がなにかしてくれれば」という気持ちから、「家族と話してみよう」「自分で情報を見つけよう」「近所の人たちとの挨拶から始めてみよう」という気持ちに変化していったことを感じました。

このような考えの変化を体感しながら、この度、高齢者の移動手段について、私たちの思いを提案書としてまとめました。

実際に個人として動くことは難しいと思います。けれど、未来の備えのために自身の足腰を鍛えようと考えたり地域の人の困りごとを理解しようと思う気持ちになったりと、この「自分ごと化会議」を通じて私たちは、未来のこと、周りのことに「自分ごと化」し始めているということに気づきました。この一つ一つの思いが、「やさしさに包まれた滝沢」につながっていくことを期待します。

2 「たきざわ自分ごと化会議」の概要



令和7年11月から令和8年2月まで全4回で、無作為抽出で選ばれた市民による議論を行いました。

会議参加者

メンバー	参加メンバー 21名 ※住民基本台帳より無作為に選ばれた1,400名のうち会議への参加を希望した者(掲載許可をいただいた方のみ記載) 【五十音順、敬称略】		
	青柳 悠輝	小野寺 武彦	上澤 宏之佐
	工藤 あかり	酒井 くに子	櫻 光治
	佐々木 由瑞	佐藤 淳子	関村 里美
	千葉 敦子	角掛 ひろみ	中村 淳子
	中屋敷 恒	仁佐瀬 一子	林 ひばり
	原田 彪	前野 美緒	三上 麻衣子
	八重畑 勇介	山本 美喜子	吉田 郁江
ファシリテーター	・柏崎 亮太 氏: 柏崎企画 代表 グループワークでは A 班を担当。 ・加藤 勝 氏: (株)官民連携事業研究所 取締役 グループワークでは B 班を担当。		
ゲストスピーカー	・今野 信男 氏: 特定非営利活動法人くちない(北上市) ※第3回にゲストスピーカーとして登壇。空白地有償運送事業等について、始めたきっかけや利用者の声、活動の中での思いなどを講演いただいた。		

各回会議の概要

第1回	令和7年11月24日(月・祝)午前9時～正午 《市役所2階大会議室》メンバー自己紹介、会議の概要説明、テーマについて現状と課題の説明
第2回	令和7年12月21日(日)午前9時～正午 《市役所2階大会議室》市の公共交通の現状・福祉バスについて説明、ディスカッション①
第3回	令和8年1月18日(日)午前9時～正午 《市役所2階大会議室》ゲストスピーカー講演、ディスカッション②、提案書の骨格作成
第4回	令和8年2月15日(日)午前9時～正午 《市役所2階201・202会議室》ディスカッション③、提案書最終確認、「まず、何からやってみる？」決意表明

第1回 テーマ提案「高齢者の外出について」 地域包括支援センター

1 高齢化について学ぼう

高齢化率とは人口に占める65歳以上の割合です。

日本は世界でも1番の超高齢社会です。

高齢化は医療や生活環境の向上に伴う長寿化の結果でもあり、これからも避けては通れないのです。



2 「良い」高齢社会を目指そう！

高齢化は今後も続いていきます。それならば、「良い」高齢社会を目指しましょう。

良い高齢社会とは、高齢者が安心して老いることが出来る社会。そして、高齢者がこれまでの知識と経験を活かして活躍できる社会です。

3 高齢者の活動に立ちはだかる「足」の壁

歳を取ると、若いころに比べてどうしても身体能力や反射速度は下がるもの…。運転の機会が減ったり、家族からやめるように勧められて免許を返納した方々はどうなっていくのでしょうか？



4 事例を通して考えてみる

運転をやめた高齢者の事例

免許返納をきっかけに、外出頻度が減り、人に会う機会が減り、家庭での役割が減り…。体もますます衰えて、抑うつ的になり、そして最後には物忘れも出てきてしまいました。

5 高齢者の移動手段について考えてみる

公共交通等、マイカー以外の移動手段はありますが、「バス停までの距離さえ歩くのが大変」「ステップの段差を登るのが大変」「そもそもバスを使ったことがないから使い方が分からない」など、高齢者にとって公共交通を使うにも様々なハードルがあります。

「足がないから自治会のイベントに参加できない」という声を受け、自治会で用意したオンデマンドタクシーの利用者が少ないといった事例から、足があっても外出にはつながらず、人が外出するためには「移動手段」と「外出の魅力」の両方が大切ということが分かりました。



歳を取っても自分らしく暮らしていくためには、私たちは、地域は、行政は 何が出来よう？ 何が必要なんだろう？

今までどこか遠く先のことと思っていた老後の交通手段、それについて、「自分ごと」としてみんなで考えてみましょう！

第1回目の議論

高齢者は300メートル歩くのが限界という研究結果があるのだと初めて知った。



移動手段や免許返納について、現時点では困っていない。

でも、家族や親戚、知り合いなどはどう思っているのかな？



今は困っていないけれど、この先の将来はどうか。

誰もが必ず年を取るのだから、家族での話題に取り上げてみようと思った。

今まで意識していなかったけれど、運転できている今から考えておかないと！



足腰を鍛えて、バス停まで歩けるようにしておく！

「移動手段がない」を都合のいい理由にして外出しないのであれば、どうしたら外出したくなるのかな？

本質は「外出したくなる仕掛け」にあるのでは？

第2回 市の現状と課題「みんなで作る 地域の交通」 都市政策課・高齢者福祉課

1 滝沢市の公共交通

公共交通とは、誰でも乗ることができる交通の事です。滝沢市は県内で2番目に公共交通が充実しています。

公共交通のネットワークを木で表すと、幹の部分が鉄道など、枝の部分が路線バス、葉の部分が福祉バスやタクシーなど、という例えで表されます。特に葉の部分は地域に最も身近な交通手段として、地域コミュニティによって支えられています。



2 公共交通を取り巻く現状

滝沢市での通勤・通学手段は自家用車が7割、公共交通利用は約1割程度です。近年では人口減少やマイカー依存、コロナの影響により、利用者の減と運転手不足が起こり、交通事業者の経営が悪化、減便や路線廃止…という負のスパイラルとなっています。

市では、公共交通関係の事業に年間約6,000万円(令和6年度)を支出し、事業者を支援しています。また、運転士不足解消のため、陸上自衛隊岩手駐屯地と連携し、退職した隊員の新たな就職先候補となるよう運転士体験及び説明会を開催するなどの事業を行っています。



3 滝沢市の福祉バスの現状、再編について

市では、主に陸大学(高齢者の趣味の教室)の送迎のために福祉バスを運行しています。福祉バスは誰でも乗車可能ですが、利用者数減により、乗車人数1人当たりの市の負担が5,600円にもなっています。そのため、現在利用しやすい新たなコミュニティバスへの再編準備を進めています。

4 持続可能な公共交通を守るということ

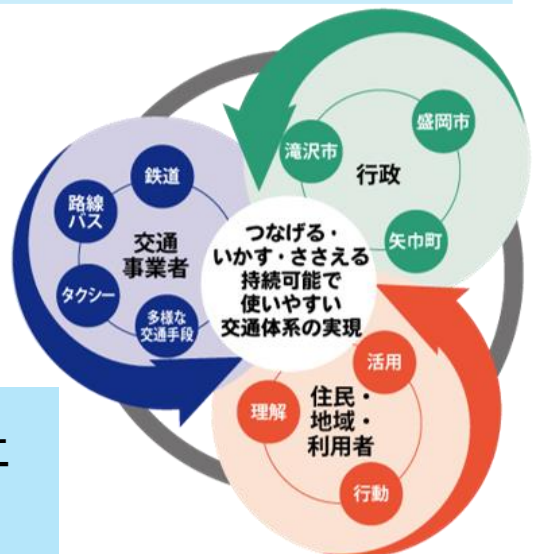
公共交通ネットワークの「木」のなかで、地域に最も身近な交通手段である「葉」の部分に元気を取り戻すことは、市役所や事業者だけでは困難で、市民の皆さん一人一人の力が必要です。

地域に合った「葉」の交通を目指すために

話し合う: 移動実態や交通の必要性を地域で共有

主体性を持つ: 課題解決に向けて地域一体で活動

連携・分担する: 地域でできること・難しいことを整理



第2回目の議論

バスは永遠にあると思っていた。

このままだとなくなる可能性もあるんだ…！！
危機感を持った。



このまま利用者が減り続ければ、
バスが、公共交通がなくなるかもしれない！



「福祉バス」に高齢者以外も乗れる
のだと初めて知った！
そして、経費が掛かりすぎている。

公共交通の現状の説明を受け、
持続させることが危機的であることを
知った。
維持していくための役割を市と業
者だけで担うのは難しいんだな。

福祉バスを再編するのであれば、
誰でも利用できるということが
分かる名前になるといいな。

テーマは「高齢者の移動手段について」だけど、
「高齢者にやさしい」ということは、
「すべての人にやさしい」ということなのでは。



検討をする上で説明を受けた現状等の概要

第3回 「地域の為の小さな拠点」 特定非営利活動法人くちない 理事長 今野信男 氏

1 NPO設立のきっかけ

北上市の口内地域は人口1,200人ほどで、25%の世帯が65歳以上の地域です。住民の「困った」の声（バスの減便、バスを降りてから目的地まで歩くのが大変、家族も仕事で思うように通院ができない）。を受け、口内町自治協議会が聞き取り調査とボランティア輸送システムの社会実験を実施（平成20年）。実施には法人格が必要のため、有志16人でNPO法人を設立しました。



NPO法人くちないが行っている有償運送

①交通空白地有償運送(町内型)

対象者: 口内町住民(世帯会員年会費1,000円)

送迎先: 町内のどこでも

利用料: 1回100円

②福祉有償運送

対象者: 口内町住民で要支援・要介護認定者及びそれに準ずる者

送迎先: 病院や市役所、金融機関等

利用料: 距離に応じて(8kmまで:800円、8~12km:1,000円、12km以上:1,200円)

事業開始時は1年3カ月にわたり、市役所とともに公共交通事業者との協議を重ねました。開始当初は①②合わせて利用者250人ほどでしたが、現在は1,600人ほどに増えています。



2 活動はそのほかにも

- ・草刈り、除雪、庭木の剪定、家廻り清掃等(1時間1,500円)
- ・ゴミ出し支援(1回100円)
- ・買い物支援(1回300円)

年間127件の利用あり(令和6年度)。草刈りなどは会員以外やB型就労施設の方にも協力してもらっています。

3 ボランティアの気持ちだけでは続かない、ビジネスとしての運営を

高齢者は「この場所で最期を迎えたい」という気持ちの方が多いです。交通の問題は福祉の問題でもあり、地域振興と密接につながっているなど実感しています。

事業開始当初から、自分たちで利用者を訪ねて、聞き取り調査をしていました。すると徐々に、「なぜ買い物に行っているか、誰がサポートしているか」が分かってきました。当初は市や国からの補助金もありましたが、補助金は、いつか必ずなくなります。できれば自分たちで利益を生み出し、「自分たちのやりたい事業を行う」、これが地域の活動の肝であると思い、活動しています。

第3回目の議論

くちないさんはすごい事例。
自分がやるのは難しいというのが素直な感想。
きちんと住民のニーズをアンケートやヒアリングで丁寧に掘り下げて聞いている、そしてその中で自分たちができることを考えられているのがすごい。



ボランティアは無料が基本だと思っていたが、
有償だと、頼む人も割り切って頼みやすい。
Win-Winだと感じた。



(移動支援などの)仕組み作りも重要だが、
日々、地域の人と関わっておき、
世間話ができる関係性を作っておく
ということが大事なのでは。



滝祭のような既存のイベントに
「どうせ私はいけない」と思っている
人、あきらめている人もいるはず。

どうやったら行けるのかを考えて、
サポートすることなら、自分たちにも
できるかも。

まずは挨拶をして近所の人と
顔見知りになっておくことが、
困りごとを聞き出す第一歩なの
かも。

3 検討の内容



第1回では、テーマである高齢者の外出について市から説明を受け、なんとなく感じてはいたものの、自分にも訪れるかもしれない身近な課題であると「気づき」を覚えました。そこから、「現状はどうなのか」「知りたい」という思いが生じ、「知ることが大事」であるということも共有しました。

その思いから、地域の交通の現状について知りたいという声があがり、第2回では市の公共交通について説明を聞きました。そこでは、滝沢市は県内トップクラスで公共交通が充実していることが伝えられ、市内での地域差は否めないものの客観的には恵まれているという現状に驚きました。また、企業と行政だけで維持する役割を担うのは難しいのだということも知り、「自分なら何ができるのだろうか」という思いが芽生えました。

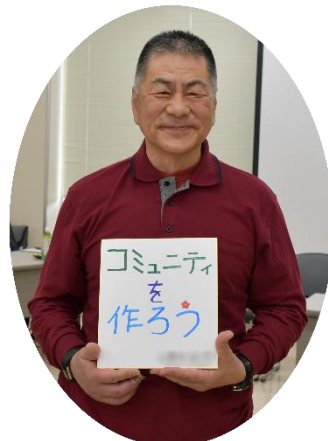
第3回では NPO 法人くちないの今野理事長からお話を聞きました。「困っている人は自分から声をあげない。」「私も、住み慣れた場所で最期を迎えたいという思いは同じ。将来私が(このサービスを)利用するときまで、活動が続いていればいいと思う。」という言葉から、困ったときに話せるような関係性を日頃から作っておくことが大事で、それは誰かのためであると同時に、将来の自分のためでもあるのだ、と考えが深まりました。

4回にわたり意見交換するうちに、雪が降った日には、「高齢者は外に出るのが大変なのだな」と思いを馳せることがあり、参加する前の自分との捉え方の違いを感じました。そして、いつの間にか、周りで起こっているかもしれない困りごとを「自分ごと化」していることに気がつきました。

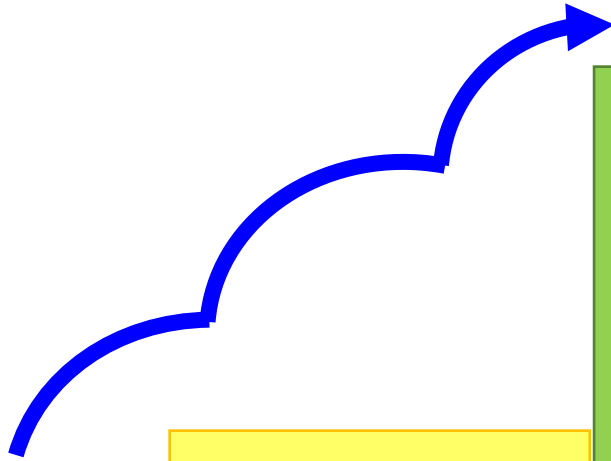
最終的に想いをまとめていく中で、話し合ってきた内容は、4つのカテゴリに分類されることが見えてきました。「4 私たちの提案」では、意見交換の中で出た課題感を整理し、4つの提案としてまとめました。

この4つを提案の柱としてみたときに、第1段階として「現在の状況を知ろう」第2段階として「公共交通を使ってみよう」第3段階として「外出したいと思う目的を作る、サポートしよう」という、行動の段階イメージが浮かびました。いわば、ホップ・ステップ・ジャンプの広がりです。

それぞれがこの段階をのぼり、さらには周りの人へも波及させていき、今度は周りの人がこの段階をのぼっていく…というように、どんどん広がって行けばいいな、という想いを込めました。



私たちの提案の概要 ～ホップ・ステップ・ジャンプで共に描く未来～



HOP (提案1)

まずは知ろう！
考えよう！

【私たち市民】

- ・自分や家族の将来について考えてみよう
- ・広報や市の SNS など情報収集をしよう

【地域】

- ・子どもたちを通して、家庭で考えるきっかけをつくろう
- ・地域でも公共交通を使う機会をつくろう
- ・地域の集まりで、将来の不安、高齢者の今の不安や困りごとを聞きだしてみよう

【行政】

- ・福祉バスの名前を分かりやすく身近なものにする
- ・分かりやすい情報発信をする

STEP

(提案2)

公共交通の
未来を守るために、
まずは使ってみよう！

【私たち市民】

- ・まずは時刻表を見てみよう
- ・公共交通を利用してみよう
- ・使用する目的・楽しさを見つけよう

【地域】

- ・地域の高齢者に福祉バスの再編について知らせよう
- ・公共交通の乗り方などを勉強する機会をつくろう

【行政】

- ・メリットを周知、パンフレット配布
- ・バスがなくなるかもしれない現状を周知
- ・再編予定の福祉バスについて、誰でも乗れることをアピールする
- ・公共交通について、担当課だけでなく、さまざまな部署を巻き込んで考える

JUMP

(提案3、4)

外出したいと思える
魅力を作ろう！
移動に不便を感じて
いる方のサポーター
になってみよう！

【私たち市民】

- ・まずは、挨拶から。世代を超えて近所の人たちと顔見知りになってみる、気にかけてみる
- ・楽しそうなイベントへの交通手段として公共交通を使ってみる(動機づけ)
- ・スマホで時刻表や乗り換えの調べ方を教えてみる
- ・困っている人、イベントに行けない人の移動のサポートをしてみる

【地域】

- ・祭りやイベントを地域の人たちと一緒に試みる企画をしてみる
- ・情報をキャッチする手段を広めてみる

【行政】

- ・市の中心部を賑やかにし、行きたい場所を増やす
- ・イベント時に臨時のバス(有料でもよい)などを出す
- ・市が行っている高齢者向けサービスの情報発信
- ・移動に関する不便さだけでなく、便利な部分も発信していく






**提案
1**

**みんなが現状を共有し、
将来のことを考えよう**

話し合いを重ねる中で、世代によって捉え方は多様であることが分かりました。免許返納について議論していくと、その時への備え方、心構えはそれぞれでした。しかし、誰もが皆避けては通れないことです。考えることを先延ばしにしないで、今後のことを考えていくことが、将来への備えの始まりと気づくことができました。

「提案1」の実現に向けて、それぞれが行うこと

<p>私たち 市民</p> 	<p>【考えてみる、調べてみる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が高齢者になったらどうしたいか考えてみる ・自分も返納する年齢になったときどうありたいか考えてみる ・家族の話題に取り上げてみる ・健康で生活を送るために5～10年後の自分がどうなっているか考えてみる ・免許がなくても不便なく生活できるように、病院やスーパーまでどのような交通手段が使えるか調べてみる ・他地域の事例を調べてみる、当事者の意見を聞いてみる ・市公式 LINE を見てみる <p>【共有してみる、発信してみる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族や地域の皆さんと現状の共有をしてみる ・将来不便になる旨を周囲へ発信してみる ・自分の知っている情報を地域の人へ伝える <p>【健康を保つ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩く・走る・早寝早起き(健康で生活する) ・返納後も歩けるよう足腰の強化
<p>地域</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校との協力(家庭で話題にする) ・地域を支える社会の教育、子どもに教える ・地域の集まりで、将来の不安、高齢者の今の不安、困りごとを聞きだしてみる ・地域・住所を理解する(地域活動の基礎) ・自分が声を出してみる(雪かきが困った、買い物に行けない) ・マイカー利用者が公共交通を使うタイミングを作る(行動変容)
<p>行政</p> 	<p>【福祉バス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉バスの再編後の名称を公募 ・福祉バスや公共交通のメリットを周知、パンフレット配布 <p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転免許返納予備軍にダイレクトメールで周知 ・ちやくぽんをもっと活用し、見てもらえるよう工夫した情報発信 ・現状をお知らせする場をつくる <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世代別交流の場を設ける ・既存事業の中で長く続けられない事業をやめ、新しいチャレンジをする覚悟



提案




2

公共交通の未来を守るために、 まずは使ってみよう



滝沢市は盛岡市に次いで公共交通網が整っていることを知りました。県内では恵まれている環境であることに驚くとともに、高齢者だけではなく、免許をもたない人たちの移動手段も「自分ごと」として考えました。「今日はバスで出かけてみよう。帰りは電車にしてみようかな。」公共交通機関での移動自体を楽しみながら、維持につながっていく行動をしていきたいと思えます。

「提案2」の実現に向けて、それぞれが行うこと

<p>私たち 市民</p> 	<p>【公共交通を使ってみる】</p> <ul style="list-style-type: none">・時刻表をしてみる・まずは乗ってみる・ボランティアと思って1回乗ってみる・定期的にバスを使うことで値上げ抑制・乗り方問題解消・マイカー利用者も公共交通を使うタイミングを作ってみる・自分の利用頻度向上(子どもと一緒に乗る。子どもの公共交通機関への心理的ハードルを下げる)・公共交通を利用する機会をつくる・自分の条件に合うときに使用してみる・路線が充実している地区もあるため、バス存続のためにも、シチュエーションに合わせて乗る機会をつくる <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none">・使用する目的・楽しさを見つける・宣伝してみる(周知の協力)・バス停までランニング(動けるうちから体力づくり)
<p>地域</p> 	<ul style="list-style-type: none">・地域の高齢者に福祉バスの再編について知らせる・電車の乗り方、Suicaの使い方などを勉強する機会をつくる・公共交通の利用を促す
<p>行政</p> 	<p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none">・LINE・メール・SNSでバスの宣伝・アピール・福祉バスの周知、名称変更(コミュニティバス等)、誰でも乗れることのアピール・現状、交通事情をまとめる。赤字である事実、バスがなくなるかもしれない現状を周知・地域でやっていることを発信・メリットを周知、パンフレット配布・市の公共交通マップ最新版の作成 <p>【交通政策の改善】</p> <ul style="list-style-type: none">・公共交通について、交通担当課だけではなく、さまざまな部署を巻き込んで考えていく

- ・利用しやすい対策全般
- ・市役所周辺の商業施設への行きやすさ
- ・大きい目的地へのアクセス向上(市役所・駅など)
- ・電車で Suica を使えるようにする(業者へ要望)
- ・でんでんむしのような路線を検討
- ・福祉バスの長距離路線化
- ・利用者に応じた規模の車両にする(利便性向上のため)
- ・乗車数に応じたバスの大きさ、乗合タクシーへ切替
- ・LINE で利用予約 → 車両の大きさ調整
- ・小型バスで短い単位で多く運行
- ・少人数予約制
- ・小さい車+リタイアした人に運転を依頼
- ・予約制にしてバスを小型化
- ・地域ごとの小規模路線、小型バス
- ・バスの小型化でドア to ドアに近づける

【その他】

- ・キッズニアイベントで啓発(業者へ勧奨)
- ・運転手の人材確保、講習会の周知

自分ごと化会議の日に
「まず公共交通に乗ってみる」を
実践して、「今日はバスで来まし
た！」と話してくれたメンバーも
いたぽん！



提案





3

みんなが外出したいと思える 魅力的な仕掛けを考えよう



話し合っていくうちに、外出しなくなることが引き起こす弊害にも話が広がりました。「自分だったらどうか」という観点で議論し、「外出したい」と思える魅力的な仕掛けを作ることが、免許返納後（老後）の「ひきこもり」防止につながるかもしれないと考えました。そして「外出したい」を後押ししたいと思いました。

「提案3」の実現に向けて、それぞれが行うこと

 <p>私たち 市民</p>	<p>【調べる、見つける】</p> <ul style="list-style-type: none">・情報は積極的に取りに行く（新聞・広報・ネット・口コミ）・習ってみたいことを見つめる・イベントに参加するために、どのような交通手段があるか調べる <p>【教える、その他】</p> <ul style="list-style-type: none">・イベントを知る、家庭内で話題にする・祭りやイベントをお知らせする・楽しそうなイベントへの交通手段として公共交通を使ってみる（動機づけ） 
 <p>地域</p>	<p>【教える】</p> <ul style="list-style-type: none">・情報をキャッチする手段を広めてみる・既にあるイベントを活用⇒交通手段の提示（見える化） <p>【企画、仕組みづくり】</p> <ul style="list-style-type: none">・柳沢地区での福祉バスツアー（地域主体で企画。福祉バスを有効活用し、地域みんなでお出かけする機会を創出）を参考にし、自分たちの地域でもできないか考える働きかけ・祭りやイベントを地域の人たちと一緒に試してみる企画をする・地域や季節によって外出しやすさに差があるので、外出しやすい環境づくり・活動に参加してもらえるような仕組みを作る <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none">・生活道路まで来る機会を増やす・サークル等へ参加
 <p>行政</p>	<ul style="list-style-type: none">・市の中心部を賑やかにし、行きたい場所を増やす・市役所周辺の賑わいづくり（外出意欲の向上）・外出したくなるような催し物・陶芸・ガーデニング教室があればいいな・市民が集える「場」づくり・外出が楽しくなるようにライトアップなど・クマ出没情報を発信することで安全面の確保・イベント時に臨時のバス（有料でもよい）などを出す・高校生、大学生などにボランティアを募集して、イベント実施のサポートを依頼

提案




4

移動に不便を感じている方の サポーターになってみよう



地域の担い手として活動している方々のことを見聞きすると「こうなるといいな」と思います。でも、「自分がその立場になったらできるのかな」と素直に思いました。そこでまずは、「最近会わなくなったあの人、どうしているかな。だいじょうぶかな。」「声をかけてみようかな。」そんな風に思いを馳せること——この「想い」が「自分ごと化」の第一歩だと背中を押してもらった気がします。

「提案4」の実現に向けて、それぞれが行うこと

<p>私たち 市民</p> 	<p>【地域の皆さんとつながる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは、近所の人たちと挨拶、会釈をして顔見知りになる ・世間話ができる関係性をつくる ・日々、世代を超えて地域の人と関わっておく <p>【周りの人のサポート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホで時刻表や乗り換えの調べ方を教えてみる ・スマホでメールの開き方を教えてみる ・公共交通の利用の仕方を教える ・困っている人、イベントに行けない人の移動のサポート ・田んぼ・畑作業時に一緒に同乗して AT 車の運転を教えてみる ・有償ボランティアがあるとすれば参加
<p>地域</p> 	<p>【ボランティア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキマ時間で主婦などが高齢者を送迎（タイミー的仕組み） ・オンデマンド交通＋有償ボランティア乗合タクシー ・運転できる人を活用したい ・コミュニティ内での送迎 ・小岩井地区のかざばやしボランティアの会の事例（ボランティア輸送）から学び、近所の人と、自分の地域でもできることがないか話題にしてみる⇒地域の人どうしの「つながり」ができる⇒孤独の解消にもつながっていく <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「マイタクシー」があつたらいい ・自治会ごとに「何に困っているか」ニーズ調査を集約（配る、まとめるという中で顔見知りになる） ・サービスの受け手が柔軟に受け入れられるように、情報が届くようにフォロー
<p>行政</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動に関する不便だけでなく、便利な部分も発信していく ・福祉バス再編後の周知 ・無料タクシー（病院・スーパー） ・ニーズ調査（地域と連携） ・AI ロボット（時刻表や路線などの検索支援） ・プラットフォームの構築 ・市が行っている高齢者向けサービスの情報発信、情報が届くようにフォロー



最終回の会議では、「老後に備えて今からコミュニティに参加しようと思った」「まずは世代を超えてつながりをもてるように挨拶から始めよう」といった声があがりました。
コロナ禍を経て、地域の人どうしのつながりが少なくなっている昨今。

声をかけあうことで、
誰かの「外出してみようかな」を
支える力になれるかもしれません。



この提案書は、滝沢市に住む市民の皆さんに向けて作成したものでもあります。

あなたも「将来の自分自身のために」
まずは挨拶から始めてみませんか？